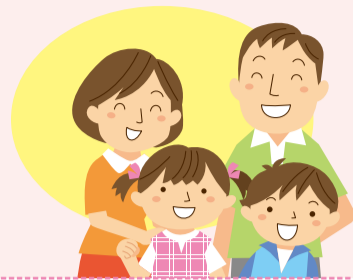


次代につながる創造的な復興を進めています

復興プロジェクトをとおして感じた人の温かさにつながり

嘉島町立嘉島中学校

熊本地震では、嘉島町も大きな被害を受け、多くの生徒が被災しましたが、休校中にもかかわらず自主的に避難所などでボランティア活動を行う生徒の姿が見られました。そこで、生徒会では学校再開後すぐに、「嘉島中復興プロジェクト」を立ち上げ、嘉島中学校から嘉島町に元気を届けることにしました。



①スローガンの看板設置

地震に負けず、前に進んでいきたいという思いから決定したスローガンが「**立ちあがる嘉島町 負けんばい嘉島中**」です。生徒会執行部で看板を作成し、避難所や地域住民から見える3カ所に設置をしました。



スローガンの看板設置

②避難所の清掃活動

月曜日から金曜日(水曜日を除く)の放課後に部活動ごとに避難所となっている町民体育館の清掃活動等を実施しました。避難所で求められている活動ができるよう、事前に町民課の職員と活動内容等の打合せを行い、避難所が閉鎖されるまで続けました。



避難所での清掃活動

③メッセージボードの作成

2年生では、道徳の時間にボランティア活動について学習をし、その後、学級活動の時間を利用して避難所で生活されている方を元気づけるためのメッセージボードを作成しました。一人一枚メッセージカードを書き、2年生全員の思いを込めたボードとなりました。



メッセージボードの作成

④花いっぱい活動

きれいな花で少しでも気持ちが明るくなるようにと、美化委員が避難所となっている町民体育館から見える場所に花を植えたプランターを設置しました。



また、阪神淡路大震災後に始まった「はる

ひまわりを植える美化委員

かのひまわり絆プロジェクト」に参加し、いただいたひまわりの種で、150本以上のきれいなひまわりを育てました。9月に実施した体育大会では、テントの前にひまわりを設置し、たくさんの方に見ていただきました。



きれいに咲いたひまわり

復興プロジェクトの取組は小さなものですが、地域の方からの「ありがとう」の言葉に生徒たちは励まされ、また、全国各地から届くたくさんの応援や支援に、人と人とのつながりや温かさを改めて感じる事ができました。

生徒会執行部では、10月21日に鳥取県で発生した地震を受け、熊本地震における支援への感謝と復興への願いを込め、鳥取県内の中学校へ応援メッセージを作成し届けました。

熊本地震にも負けず、頑張っています

支えていただいた多くの人々に感謝して

熊本県立第一高等学校合唱団

9月に佐世保市で行われた第71回九州合唱コンクールに出場し、高等学校部門の最優秀団体に贈られる朝日新聞社大賞を受賞し、44回目の全国大会出場を果たしました。

熊本地震後約3週間の休校期間、2、3年生部員が部活動を続けていけるのか、そして新入部員が入らないのではないかと大変心配しておりました。しかし、例年よりも多い新入部員を迎え練習に取り組み、今回このような賞をいただき、団員一同大きな喜びと感動を覚えました。

10月に高松市で行われた全日本合唱コンクール全国大会の結果は銅賞ではありましたが、40人の部員が誰一人辞めることなく全国大会で歌うことができ、感動を新たにするとともに、人々に大きな感動を与えられる歌の力を改めて感じる事ができました。今後も「歌う仲間を大切に」をモットーに、支えていただいた多くの人々に感謝しながら、日々活動していこうと思います。



大賞受賞をよろこぶ第一高校合唱団の皆さん

熊本地震の体験から気づいたことを手話で伝えたい

熊本県立阿蘇中央高等学校

社会福祉科2年井麻優香さんは「第33回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」に出場し、第1位に輝きました。



コンテストで発表する井さん

井さんは「生きる」と題して、熊本地震で味わった恐怖や不安、長引く避難生活、そして消防団員として地域のために駆け回った父の姿などを、感情溢れる表情を交えた手話による迫力あるスピーチを行いました。

また10月30日には「くまもと教育の日」県民フォーラムにおいても、発表しました。

コンテストへの取組を通じた思い

私は4年前の水害で大きな被害を受けた地区に住んでおり、熊本地震でも土砂崩れの恐れがあり、家族とともに避難生活をしました。二度の自然災害を経験して感じた「家族の大切さ」や「生きて生活できることへの感謝の気持ち」を多くの方に伝えたいと思い、手話によるスピーチに挑戦しました。

熊本県ろう者福祉協会の先生にご指導いただく中で、手話は単に言葉を置き換えるのではなく、状況や心情を伝えるために、表情をつけ、身体の向きなどを工夫して伝えることが大切だと学びました。



表彰式の様子

今後もさらに手話を学び、熊本地震の経験を風化させないよう、多くの人に伝え続けていきたいです。

井 麻優香